

令和7年度 次世代創出PBL推進事業  
**実施報告書【学校課題実践校用】**

学校番号	23
学校名	富山県立大門高等学校

学校の現状と課題	本校は、昨年度(令和6年度)、DXハイスクールに採択され、「情報の大門」として新しい段階に進んだ。昨年度に整備したICT環境を活かし、今年度は実践内容の充実を図っていく。その中で、情報を核とした教育活動をどう展開していくのが課題である。	
テーマ(特色)	情報を核とした国際・地域・環境に関する教育活動の展開	
設定した「テーマ」の達成状況	<p>本年度は、昨年度整備したICT環境を基盤とし、デジタル技術ツールとして活用して「情報の共有と発信」を軸に据えた活動を展開した。</p> <p>「地域・環境」という点では、「情報課題研究」で多くの班が地域の課題を調査・研究の対象として取り上げ、デジタル技術を駆使して課題解決に当たった。例えば、地域の防災環境向上のため、「防災『逃げマップ』」というアプリを開発した。また、「地域」においては、3年生が自らの研究成果を中学生に伝える出前講座を実施したり、射水市での課題研究発表会で、他校生や地域の方々と研究成果を共有したりと、学びの還元を実現した。「国際」においては、JICAの講師による講演を通して多角的な視点を獲得することで、探究活動に地球規模の視点を取り入れる契機とした。</p> <p>「情報課題研究」において、大学教授等の専門家から継続的な指導・助言を受けたことで、データに基づいた論理的な考察が可能となり、テーマに対して多角的・専門的なアプローチを実践できた。</p> <p>以上から、情報を核とした各分野の教育活動は着実に深化しており、「十分に達成できた」と評価する。</p>	
実施内容 (具体的に記入する)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【新湊南部中学校で出前講座】(3年 5月23日(金))…中学生に向け、昨年度自分たちが行った調査・研究について発表した後、探究活動を行う際のアドバイス等を伝えた。</li> <li>●【情報コース研修(富山県立大学)】(2年情報コース 7月4日(金))富山県立大学にて、3つの講座に分かれて、大学教授の指導や大学生のサポートのもと、実習を行った。工学実習を通して、ものを創造する喜びを感じ柔軟な思考力を養った。また、先端技術に触れ刺激を受けた。</li> <li>●【探究活動推進に関する講演会】(2年 7月9日(水))…文系生徒向けと理系・情報コース生徒向けに、それぞれ講師を招いた。生徒たちの探究活動の質を高め、深く思考する力を養う機会を提供した。</li> <li>●【「情報課題研究」の中間発表会】(2年文系「情報課題研究」選択者及び2年情報コース 9月5日(金))…富山大学・富山県立大学から教授を招き、班ごとに設定したテーマについて、4月から調査・研究してきたことを発表した。わかりやすく伝える方法について考えさせるとともに、研究内容を客観的に見つめ直し、ここで得た助言や指導を今後の研究に活かす契機とした。</li> <li>●【「情報課題研究」の発表会】(2年文系「情報課題研究」選択者及び2年情報コース 1月16日(金))…富山大学・富山県立大学・金沢大学から教授・准教授を招き、わかりやすく発表する工夫をしながら研究内容の最終発表を行った。専門家の質問・助言から、研究のまとめかたを学んだり、次への示唆をもらったりした。</li> <li>●【「情報課題研究」の報告会】(1・2年 1月27日(火))…富山大学の教授、学校評議員の方々を招き、発表会で選ばれた8班が研究成果を報告した。報告会の様子は、1・2年の全クラスにオンライン配信した。</li> <li>●【国際理解講座】(1年 2月3日(火))…JICA国際協力出前講座を利用し、マラウイ共和国でJICA海外青年協力隊の活動経験のある方を講師に招いた。現地でのリアルな体験談を聞き、日本との生活・教育・価値観の違いを知り、視野を広げた。</li> <li>●【射水市と市内県立高校との連絡会議(課題研究報告会)】(2年 2月12日(木))…クロスベイ新湊で、小杉高校・新湊高校・本校の代表生徒たちが、射水市の副市長や市役所の方々に、今年度の研究成果を報告した。</li> </ul>	
取組による成果 (プロジェクト学習推進の観点から)	<p>① アウトプットを通じた主体性の育成          中学生への出前講座という伝える場の設定や、研究成果を射水市への提案として発表して市役所の方々からフィードバックをもらうことで、生徒は自らの学びを再構成し、客観的に捉え直す機会を得た。これにより、「誰かの役に立つ情報活用」という視点が芽生え、探究に対する主体的な姿勢が養われた。</p> <p>② 外部連携による探究サイクルの質的向上          三大学(富山大学、富山県立大学、金沢大学)から指導助言者を招聘した「情報課題研究」発表会・報告会により、学術的な視点での検証・修正プロセスが確立された。単なる調べ学習に留まらず、仮説・検証・再構築というPBLのサイクルを高いレベルで実践できたことは、生徒の論理的思考力と表現力の向上に大きく寄与した。</p> <p>③ 探究学習の系統的・組織的展開          1年時の国際理解から、2年時の「情報課題研究」、3年時の地域貢献(出前講座)へと、学年を追うごとに探究のステージが上がる仕組みが構築された。これにより、DXハイスクールとしてのICT環境が、生徒の「知の深化」を支えるインフラとして機能し、本校におけるPBL推進の基盤がより強固なものとなった。</p>	
対象者(学年・人数など)	1年・120名、2年・118名、3年・8名	
実施実績	4月	
	5月	新湊南部中学校での「情報課題研究」出前講座
	6月	
	7月	情報コース研修(富山県立大学)、探究活動推進に関する講演会
	8月	
	9月	「情報課題研究」の中間発表会
	10月	
	11月	
	12月	
	1月	「情報課題研究」の発表会・報告会
2月	国際理解講座、射水市と市内県立高校との連絡会議	
3月		